

## 所謂齒槽膿漏症の外科的療法に於ける 電氣メス使用の經驗

渡邊 巖 進藤 貞義

(東京帝國大學醫學部齒科學教室 金條教授)

所謂齒槽膿漏症の外科的療法に電氣メスを使用せる二、三の經驗を述べ、使用せる電氣メス Akoma 會社製 Heliotor No. 840 (電壓 3200V, 電流の強さ 3000 Miliamper 波長 45m).

**手術術式** 局所浸潤麻酔の後、罹患齒齦縁に沿ひ、電氣メスを以て切除し、殘存肉芽を焼灼除去し、なほ深在齒石の徹底的除去を行ふ。ヨードチンキ塗布、Haliva 軟膏繃帶を施行し手術を了はる。なほ動搖相當高度のものは術後 Ligature-Wire で結紮固定す。手術は總べて渡邊の執刀によるものなり。

**手術經驗** 昭和16年1月より7月まで26例について實施す。病狀進行度はレ線による齒槽骨吸收程度、齒牙弛緩度、排膿、出血状態を目安とし、これに對する電氣メス使用による手術成績は肉芽新生の状態を中心に觀察し、治癒後は特に、排膿、出血、盲嚢形成の狀況を以て判定す。26例の經驗は表1に一括した。

以上の經驗より、つぎの諸點を指摘した。

1) 成績不良なりし3例は、いづれも比較的初期の經驗にして、強く焼灼し過ぎたる結果に基くものの如く、電流の強さを適當に調節すること (現在 100 乃至 200 Miliamper 使用により、最近殆ど總べて良好な成績を得た)。

2) 手術創は術後大體3日間は黒灰色の苔被にて覆はれるも、漸時良好な肉芽の新生をみるに至り、大體2乃至3週にして治癒す。

3) 齒牙は最初知覺過敏となれると思はれる例あるも、大體3日位、遅くも1週間にして恢復す。これも電氣メスの強さを調節し、最近殆どその影響をみず。

表 1

番 號	姓 名	性	年 齡	手術前所見						手術後所見				治 療 期 間	成 績
				部 位	線 像 に よ る 吸 收 程 度	後 窩 に 槽 溝 程 度	齒 池 程 度	牙 緩 度	排 膿	出 血	肉 芽 の 新 生	排 膿	出 血		
1	正○シ○	♀	22	4+4	1/3	+	+	±	+	-	-	+	+	25日	+
2	菅○○雄	♂	24	3+3	1/3	+	+	+	±	-	-	+	±	25日	±
3	吉○福○	♀	26	3+3	1/3	+	+	±	+	-	-	-	+	22日	+
4	水○○子	♀	23	3+3	1/3	+	+	±	+	-	-	+	+	20日	+
5	菅○○雄	♂	24	3-1	1/3	+	+	+	+	-	+	+	±	23日	-
6	水○○子	♀	23	5-7	1/3	+	+	+	+	-	-	-	+	21日	+
7	小○久○	♀	19	4+3	1/3	+	+	+	+	-	-	+	+	14日	+
8	鈴○正○	♂	19	3+3	1/4	+	+	+	-	-	±	-	±	24日	-
9	新○隆○	♀	22	3-1	1/3	+	+	±	+	-	-	+	+	15日	+
10	脇○み○	♀	34	3+3	1/3	+	+	+	+	-	-	-	+	23日	+
11	岡○美○	♀	29	3+3	1/3	+	+	+	+	-	-	-	+	14日	+
12	藤○一○	♂	23	3-1	1/3	+	+	+	+	-	-	±	+	20日	+
13	脇○み○	♀	34	3+3	1/3	+	+	+	+	-	-	-	+	20日	+
14	鈴○正○	♂	19	1-3	1/4	+	+	±	+	-	-	+	+	19日	+
15	岡○美○	♀	29	3+3	1/3	+	+	+	+	-	-	-	+	15日	+
16	相○ツ○	♀	30	5-1	1/3	+	+	+	+	-	-	-	+	20日	+
17	本○○子	♀	22	3-1	1/2	+	+	+	+	-	-	+	+	16日	+
18	池○照○	♀	18	5-4	1/3	+	+	+	+	-	-	+	+	15日	+
19	山○=○子	♀	22	3+3	1/3	+	+	+	+	-	-	-	+	14日	+
20	本○○子	♀	22	3+3	1/3	+	+	+	+	-	-	+	+	18日	+
21	池○照○	♀	18	5+4	1/3	+	+	+	+	-	-	+	+	15日	+
22	湯○○子	♀	25	4+4	1/3	+	+	+	+	-	-	±	+	15日	+
23	高○靜○	♀	16	3-1	1/3	+	+	±	+	-	-	+	+	14日	+
24	宮○喜○	♀	17	4+4	1/3	+	+	+	+	-	-	+	+	16日	+
25	山○=○子	♀	22	4+5	1/3	+	+	+	+	-	-	±	+	14日	+
26	高○靜○	♀	16	3+3	1/3	+	+	+	+	-	-	+	+	14日	+

今 Schröder 電氣診斷器を使用し、電氣メス使用せるものと、然らざるものを、術前後につき比較するに表 2 の如し。

4) 電氣メスを使用せざる場合と比較のため、以上の症例中 7 例に於

て、同一患者に就き、同一類に於て左右側に就き、電氣メス使用、非使用を行ひ、その結果を比較するに、電氣メス使用が甚だしく治癒期間遅延すると思はれず、しかも電氣メスを使用せざる場合に比し、電氣メス使用のものは、齒牙と齒齦縁との接著は極めて緊密にして、理想的と思はるる治癒を營み、排膿、出血は殆ど完全に停止

表 2

No.18.池○照○		
	電氣メス	普通メス
齒牙別	654321	123456
手術前	6, 5, 5, 7, 4, 3	4, 6, 3, 3, 7, 8
2 日後	1, 2, 1, 0, 0, 0	0, 10, 1, 1, 5, 2
4 日後	1, 2, 1, 1, 0, 0	0, 2, 2, 5, 5, 3
6 日後	6, 8, 7, 2, 2, 1	1, 2, 9, 5, 5, 7
No.18.池○照○		
	電氣メス	普通メス
齒牙別	654321	123456
手術前	4, 3, 7, 6, 7, 4	4, 5, 12, 7, 8, 8
2 日後	7, 11, 8, 0, 0, 0	0, 9, 0, 8, 13, 10
4 日後	7, 10, 7, 2, 2, 2	2, 2, 2, 7, 5, 4
6 日後	2, 6, 8, 4, 5, 7	4, 5, 9, 7, 6, 6
No.22.湯○○子		
	電氣メス	普通メス
齒牙別	54321	1234
手術前	5, 10, 4, 10, 4	4, 5, 4, 4
2 日後	5, 3, 3, 3, 2	2, 1, 2, 4
4 日後	5, 3, 3, 3, 2	2, 2, 2, 4
6 日後	5, 4, 4, 4, 3	3, 4, 5, 5

す。今電氣メス使用のものと、然らざるものとを比較すると、つぎの如し、成績は使用せぬものに比しての判定なり。

5) 電氣メス使用手術法は、手術時出血甚だ少量にして、手術操作は簡單迅速なり。同一術者により施行せる結果は、時間も電氣メスを使用せぬ場合の大略半分位なり。

6) 理論的に考へても慢性化膿瘻よりの細菌撒布の機會も、電氣メスを使用せるものは甚だ少しと思考さる。

これを要するに以上の經驗より、余等は電氣メス使用齒槽膿漏症手術の優秀性を承認するものにして、適應症ある膿漏症手術に際しては、電氣メス使用を推奨するものなり。

以上の經驗は短期間に於ける成績のそれなるも、余等は從來の電氣メスを使用せざる豊富なる手術例の經驗よりして、向後これ等症例は電氣メス使用せざるものよりも、突然的事項のなき限り、順調なる経過をと

表 3

番 號	姓 名	性 別	年 齡	手術前所見						手術後所見					治 癒 期 間	成 績	
				部 位	線 像 に 吸 収 し る 骨 度	槽 窩 程 度	牙 綫 程 度	排 膿	出 血	肉 芽 新 生	排 膿	出 血	知 覺 過 敏	苔 被			齒 齦 と 齒 牙 の 密 着 度
1	菅〇〇雄	♂	24	E	3-1	1/3	++	++	++	+	-	+	++	卍	±	23日	-
					1-3	1/3	++	++	++	++	-	-	±	+	+	19日	
2	新〇隆〇	♀	22	E	3-1	1/3	+	+	±	卍	-	-	++	卍	卍	15日	++
					1-3	1/3	+	+	±	++	-	-	+	+	+	14日	
3	藤〇一〇	♂	23	E	3-1	1/3	++	+	++	卍	-	-	±	卍	++	20日	++
					1-3	1/3	++	+	++	+	-	-	±	+	±	17日	
4	鈴〇正〇	♂	19	E	1-3	1/4	+	+	±	++	-	-	++	++	++	19日	卍
					3-1	1/4	+	+	+	+	-	-	±	±	±	17日	
5	本〇〇子	♀	22	E	3-1	1/2	卍	+	+	卍	-	-	++	卍	卍	16日	卍
					1-3	1/2	卍	+	+	++	-	-	+	±	+	12日	
6	池〇照〇	♀	19	E	5-1	1/3	+	+	+	++	-	-	++	卍	卍	15日	卍
					1-3	1/3	+	+	+	++	-	-	±	+	+	13日	
7	湯〇〇子	♀	25	E	4+4	1/3	+	+	++	卍	-	-	±	++	卍	15日	卍
					5+6	1/3	+	+	-	+	-	-	±	+	++	14日	
8	宮〇喜〇	♀	27	E	4+4	1/3	+	+	++	卍	-	-	+	卍	卍	16日	卍
					4+4	1/3	+	-	±	++	-	-	+	+	++	15日	
9	高〇靜〇	♀	16	E	3-1	1/3	+	+	±	卍	-	-	++	卍	卍	14日	卍
					1-3	1/3	+	+	±	+	-	-	±	+	+	14日	

註 E……電氣メスを使用せる症例

るものと思惟す。なほ今後、症例の経験を積み、長期観察の結果を報告する機会あるべし。

最後に齒槽膿漏症手術に使用する電氣メスの改善も、また忽せにすべからざる問題なるべし。

(受附：昭和17年5月26日)